

地歴 問

地理歴史等

平成 26 年度 (前期日程)

注 意 事 項

- 1 「解答はじめ」というまで、この問題冊子を開いてはいけません。
- 2 問題は 1 冊(本文 31 ページ、下書用紙 2 枚)で、解答用紙は 1 枚です。下書用紙は問題冊子の中に挟み込んであるので、引き抜いて使っても構いません。なお、問題冊子と下書用紙は持ち帰って構いません。
- 3 すべての解答用紙に受験番号を書きなさい。なお、受験番号は、次の要領で明確に記入すること。

(例) 受験番号 50001 番の場合 →

5	0	0	0	1
---	---	---	---	---

- 4 1) 世界史, 2) 日本史, 3) 地理, 4) 倫理, 政治・経済, 5) ビジネス基礎, 以上 5 科目のうちから 1 科目を選んで答えなさい。さらに選択科目の番号を受験番号の隣の欄に書きなさい。

(例) 2) 日本史を選んだ場合 →

					2
--	--	--	--	--	---

- 5 解答は、解答用紙の所定の位置に横書きで書きなさい。他のところに書いても無効になることがあります。

また、字数などの指示がある場合は、その指示に従って書きなさい。なお、字数制限がある場合、洋数字及びアルファベットに限り、1マスに2文字入れることができます。それ以外の句読点や問題番号には1マスを使用すること。ただし、例えば「問1」ならば「1」とのみ書いても構いません。

世界史

I 次の文章は、ワット・タイラーの乱についてのある年代記作者の記述である。この文章を読んで、問いに答えなさい。

翌金曜日(1381年6月13日)、農村(ケント、エセックス、サセックス等の地域)とロンドンの民衆は10万人以上の恐るべき大群となった。この中、ある者達は国王(リチャード2世)の到来を待つためブレントウッドを通りマイル・エンドに向った。他の群集はタワー・ヒルに集まった。7時頃、国王はマイル・エンドに到着する。……民衆の指導者ワット・タイラーは民衆の名の下、国王に次の事項を要求した。すなわち、国王と法に対する反逆者を捕え、彼らを処刑する。そして、民衆は農奴ではなく領主に対する臣従も奉仕の義務もない、地代は1エーカーにつき4ペンスとする、誰しも自らの意志と正規の契約の下でなければ働かなくてよい、というものであった。国王はこれを特許状として発布した。この特許状に基づき、ワット・タイラーと民衆は、カンタベリー大司教シモン・サドベリ、財務府長官ロバート・ヘイルズ等、国王側近を捕え、首をはねた。……翌日、再びタイラーは国王に対し、「ウィンチェスター法以外の法は存在しない、同法以外の法の執行過程での法外処置を禁止する、民衆に対する領主権の廃止と国王を除く全国民の身分的差別を撤廃する等」を要求した。国王はこの要求をもあっさり認めたが、……その直後、ロンドン市長ウィリアム・ウォルワースが国王の面前まで突進し、ワットを捕え刺殺した。……かくして、この邪悪な戦争は終わった。

(歴史学研究会編『世界史史料5』より引用。但し、一部改変)

問い この乱が起こった原因あるいは背景として、14世紀半ば以降にイギリスが直面していた政治的事件と社会的事象が考えられる。この2つが何であるかを明示し、それらが上の資料で問題とされている「国王側近」「民衆に対する領主権」と、この乱に至るまでどのように関連していたか論じなさい。(400字以内)

II 次の文章を読んで、問いに答えなさい。

歴史なき民が歴史のおもてに現われる。歴史なき民がいまや歴史に積極的にかかわるかもしれぬ。歴史が、というより歴史の価値が崩れたのである。歴史を担った——そしてまた歴史の価値を自覚的に構成した——選ばれた民からすれば、これは歴史にたいする冒瀆と反動である。乱世か革命か、1848年のヨーロッパがそれである。

「歴史なき民」とはエンゲルスから借用した文句である。そこでまず、エンゲルスの悪評高き一文の引用から始める。「ヘーゲルが言っているように、歴史の歩みによって情容赦なく踏み潰された民族のこれらの成れの果て、これらの民族の残り屑は、完全に根だやしにされ民族でなくなってしまうまでは、いつまでも反革命の狂信的な担い手であろう。およそ彼らの全存在が偉大な歴史的革命にたいする一つの異議なのだ」。ここでエンゲルスの頭にあるのは、パン・スラヴ主義の担い手たち、すなわちポーランド人をのぞく西スラヴ人と南スラヴ人、それにヴァラキア人（ロマン人、すなわちルーマニア人）などである。エンゲルスの目から見れば、これらの諸民族には未来もなければ、歴史もない。……これらの民族は、放置しておけばトルコ人に侵され、回教徒にされてしまうであろうから、そのくらいならドイツ人やマジャール人に吸収同化してもらえるだけありがたく思わねばならぬ、ともエンゲルスは別のところで言っている。

（良知力「48年革命における歴史なき民によせて」『向う岸からの世界史』より引用。但し、一部改変）

問い 引用文の筆者である良知は、1976年に書いたこの論文の中で、「歴史なき民」に対するエンゲルスの考え方を批判的に考察しながら、1848年のヨーロッパの諸事件においてこれらの民が担った役割の再評価を試みた。この文章を参考にして、エンゲルスが「歴史の歩み」と「歴史なき民」の関係をどのように理解しているかを説明しなさい。それを批判的に踏まえながら、下線部の人々がどのような政治的地位にあったかについて、17世紀頃から21世紀までを視野に入れて論じなさい。（400字以内）

Ⅲ 次の文章は、16世紀末から17世紀末にかけて大きく変動した東アジア情勢の一端を伝えるものである。これを読んで、問1、問2に答えなさい。

万暦47年(1619年)のサルフの戦いで大敗して以降、明朝では、女真族の軍事的脅威が急速に高まりを見せる。こうした中で、新式火器の導入をもってかかる危機的状況を打開しようとしたのが、官僚にしてキリスト教徒として著名な徐光啓である。爾後、明朝では、徐光啓やその弟子の李之藻、孫元化などが、火器に精通し、(A.)のポルトガル人と深い関係を持つキリスト教官僚らを中心に、新式火器の導入や火器の整備が建議・実施される。

万暦32年(1604年)、進士となり官界に進出した徐光啓は、しばしば兵事、特に新式火器の導入による軍備充実の必要性を陳述して注目を浴びた。それは主として、ポルトガルの拠点となっていた(A.)で製造される高性能のヨーロッパ式大砲(紅夷砲)を導入し、北京、およびその近郊や遼東諸地域の軍事拠点に配備するというものであった。同時に彼は、彼に師事する李之藻らを通じて(A.)のポルトガル当局と独自に買い付け交渉を進め、泰昌元年(1620年)、みづから費用を工面して4門の紅夷砲を購入した。天啓元年(1621年)の瀋陽・遼陽の陥落など、いっそう深刻な状況となった対女真情勢を背景に、明朝は、徐光啓の建議を採用し、合計30門の紅夷砲を(A.)から購入し、北京、および(B.)や寧遠などの軍事拠点に投入した。また、天啓3年(1623年)、紅夷砲の操作に熟達するポルトガル人技師約100名を火器操作の指導者として召募して北京に招聘し、京営での砲手育成の訓練に充当した。

(久芳崇『東アジアの兵器革命』より引用。但し、一部改変)

問1 空欄(A.)(B.)に当てはまる地名を答えなさい。さらに、清朝が明朝に替わって中国を支配するようになった経緯を、さまざまな要因を関連づけて説明しなさい。(240字以内)

問 2 16 世紀末から 17 世紀末にかけて、朝鮮と明朝・女真・清朝との関係はどのように推移したのかを説明しなさい。その際、次の用語を必ず使用しなさい。
(160 字以内)

壬辰の倭乱 ホンタイジ 冊 封